



パーサビアランスの活躍

火星は現在ぎょしゃ座にあって1.5等級の目立たない存在としてなっています。しかし火星の表面では、アメリカの探査ローバー（車）「パーサビアランス」（Perseverance:「忍耐」という意味）が注目されています。

パーサビアランスは7つの観測装置と、19台のカメラ、探査用のヘリコプターを持つ、本格的な探査車です。昨年、7月に打ち上げられ、2月18日に、シュルチス地方、ジェゼロクレーター（Jezero Crater:直径45キロメートル）の中に着陸しました。このクレーターは、かつて水が流れた跡の中にあり、探査機はその付近の石や

土壌を調べます。いうまでもなく、火星に生命の痕跡がないか調査するのが目的です。

人類はこれまで、多くの探査機を火星に送り、生命の痕跡を調べてきました。残念ながら今のところ生命存在の有効な証拠は見つかっていません。探査機の降りたところで、たまたま生命が見つからなかったただけかも知れません。

しかし、今回は太古に水が流れた跡の上を2年間をかけて長距離移動しながら調べる計画です。まさにその名の通り「忍耐」の探査旅行です。その間多くのサンプルを集め、2026年にESA（ヨーロッパ宇宙機関）が火星に送る探査機に積み地球へと届けられます。これまでも、生命を見つけれないまま寿命を終えた探査車が数多くありました。パーサビアランスが、その忍耐力で、生命の痕跡を見つけてくれる日を待ちたいと思います。

4月19日パーサビアランスに搭載された、ヘリコプター（インジニユイティ:Ingenuity=「創意工夫」の意味）がテスト飛行を行い、成功したというニュースが入ってきました。

2021年4月20日記（解説員:田部一志）



火星の中緯度にあるジェゼロクレーター。このクレーターの縁にパーサビアランスは着陸しました。

ESA/DLR/FU-Berlin/NASA/JPL-Caltech